

春のお彼岸



朝日がだんだん早く昇り、
夕日も遅く沈むようになりました。
三寒四温のみぎり、
皆様、いかがお過ごしでしょうか。

冬を乗り越え、花々が咲き競う今月は、
3月18日から24日までの一週間
春のお彼岸を迎えます。

三連休をはさむこともあり、遠くに住むご家族もそろって、
牡丹餅など作られるご家庭も多いことでしょう。

さて、この「彼岸」という言葉は、
今ではこの一週間の指す言葉として認識されることが多いですが、
もとは仏教用語「到彼岸（とうひがん）」を略した言葉です。
「彼岸（あちらの岸）に到達する」とは、どういうことでしょうか。

今、私達は此岸（こちらの岸）におります。
こちらの岸は、貧富や力の強弱、身分の高い低い
など比較するものが存在する世界です。
これを相対の世界と言いますが、
最もわかりやすい相対は、
生きているのか、死んでいるのかという相対です。

それに対して、彼岸（あちらの岸）は、
絶対の世界と言われております。
完全で、バランスのとれた悟りの世界です。
比較する対象物のない、安らぎの世界です。



ではどうやって「彼岸」に到達できるのでしょうか。
仏教では、こちらの岸からあちらの岸へ渡るため、
観音菩薩様が船を出してくださる、と教えています。
その船には「禅定」でもって乗ります。

「禅定」とは、静かに坐禅を組み、
欲を捨て執着を離れ、三昧の境地に入り、
静かに自分の仏心を求めることです。

自分の中の素直な仏心が、心を覆い尽くし
邪心が入る隙間がなくなるその日まで、
私達は観音菩薩様の船に乗って航海を続けます。



現代社会では、何事も疑う心が先走りがちです。
けれど、春を彩る花々は疑うことなく、
時が熟せば、無心に咲きます。

疑わば 花開かず
信心清らかなるとき 自ずと花開き 仏を見る

この春、皆様と御一緒に観音様の船の上、
自分の仏心を疑うことなく、
航海を続けていきたいと思ひます。



大智寺だより

平成 26 年 弥生
Vol.49

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話：058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去のすべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

2月号発行部数
200部

ご愛読

ありがとうございます

～ シリーズ 美濃西国三十三観音霊場 その⑨ ～
4年に一度の総開帳 平成26年4月6日(日)～4月20日(日)

観音様ののぼりを奉納いただき、ありがとうございました

山口和美様 山口憲男様 近松正美様
山口浩之様 山口さかゑ様
村瀬健治様 笠井岩夫様



お寺では、総開帳の期間中境内に立てる観音様ののぼりを奉納して下さる方を募集しております。
のぼりには、施主様のお名前を記入させていただきます。(一本 2,200円)

霊場めぐり ひとくちメモ

観音信仰は、その昔インドから中国、朝鮮、そして日本に流伝しました。
日本では、古くから観音信仰が全国に浸透し、民衆信仰の代表とも言われるようになりました。

特に「西国三十三観音霊場」をはじめ日本では「三十三観音霊場」が全国に点在します。
どうして「三十三」なのでしょう。

この観音信仰の基盤をなす代表的な経典が、「妙法蓮華経」の中の「普門品第二十五」。
「世尊偈(せそんげ)」とも呼ばれるお経です。

このお経の教えを簡単に要約すると、次のようになります。

私達が、真心をもって一心に観音様の御名を称えれば、
その音声を観じて観音菩薩は、たちどころに私達の苦悩を救ってくださる。
観音様は、苦悩する私達にわかりやすいように
その姿を三十三の姿に変えて、私達の目の前に現れ、慈悲深く救ってくださる。



この「三十三」という数に合わせて始められたのが、三十三観音霊場巡りとなります。
三十三観音霊場巡りは、観音様への帰依のあらわれの一つとして行われているものであり、
そのため、普段の旅行や観光とは異なり、
霊場から霊場への移動中も含めて、大切な祈りの場といえます。

三十三観音霊場を巡る道々、出会う人の優しさやもてなし、
美しく咲く花々、隣りの人の親切な声掛け、
それらすべては「三十三」に身を分けて現れる観音様の化身です。
「ありがとう」「おかげさま」の気持ちで、
ゆく先々の観音様に手を合わせましょう。



霊場のご紹介

第二十五番札所 : 臨済宗妙心寺派 大智寺(岐阜市) ご開帳: 十一面観世音菩薩
ここです。もともと里5号の観音堂に安置されていた十一面観音様をご開帳いたします。

第二十六番札所 : 臨済宗妙心寺派 清水寺(加茂郡) ご開帳: 十一面観世音菩薩
山門から溪谷に沿って急な石段を登る禅寺、国指定重要文化財の秘仏がご開帳されます。

第二十七番札所 : 臨済宗妙心寺派 祐泉寺(美濃加茂市) ご開帳: 聖観世音菩薩
木曾川に向けて開けた境内には、播隆上人の歌碑や文豪坪内逍遙の歌碑などがあります。

第二十八番札所 : 臨済宗妙心寺派 龍福寺(加茂郡) ご開帳: 聖観世音菩薩
門前には十王堂があり参道を歩くと堂々とした楼門があらわれる、風格のある禅刹です。

お寺では、これから観音霊場巡りをなさる方に、奉納経(一冊500円)をご用意しております。
この奉納経は、各お寺のご朱印をいただくための 美濃西国三十三観音専用のもとなります。



～ 観音様の教え 『延命十句観音経』 ～

第九句：念々従心起（ねんねんじゅうしんき）

子どもも唱えられる 一番短いお経から、
観音様の教えを簡単にご紹介。



この句に出てくる「念念（ねんねん）」という語は、あまり普段使われない仏教用語です。
大辞林（三省堂）でこの語を調べてみると、
「一刹那一刹那（いっせつな いっせつな）・瞬間瞬間」と意味が書かれています。

それを踏まえて考えると

第九句「念々従心起」・・・一瞬一瞬、仏心から沸き起こってくるものに従います
仏心とは何であったか、それは私利私欲を求めない純粹無垢で素直な心です。
誰にでもこの仏心はそなわっています。

仏心とは、他の痛みや苦しみを自分のこととして受け入れ、分け隔てなく思いやる心です。

日々の暮らしの中では、邪心や煩惱で心がいっぱいになり、仏心が隠れてしまいがちですが、
それでも自分に仏心があることを信じ、その言葉に耳を傾けてみてください。

自分の仏心に従える日が、週に1回から一日に1回となり、

一時間に1回から、一瞬一瞬に到達すれば、

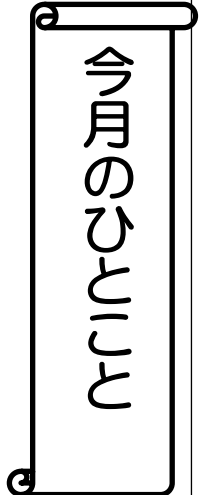
あたかもお釈迦様が今、そこにいらっしゃるような毎日となるはずです。

春の山から鳥や虫、人へ、そして人から人へ、
生き物同士、笑顔は垣根を越えて広がります。
笑顔を通して、つながりを感じる。今日の頃です。

思えば、冬から覚めた土の中に小さな芽を見つ
けた時、枯れ枝のつぼみが膨らんだ時、私達は自
然に笑顔になります。畑を耕し植えた種から芽が
出た時の笑顔は格別だと思えます。春は「山笑つこ
と言いますが、足元の雑草をはじめ山全体、自然
すべてが私達に笑顔で語りかけてきます。

さて先日より募集をしてまいりました美濃西国
三十三観音バスツアーにお申込み下さった皆様、
ありがとうございます。今回は、お檀家様のみ
ならず一般の方々にもお申込みいただき、一緒に
お参りする日が今から楽しみです。
4年前の総開帳を思い出すと、どこのお寺でも
にこやかに迎えられる、素朴で温かいおもてなしを
受けた記憶がよみがえってきます。不思議なもの
ですが、笑顔で声をかけられると、こちらも自然
と笑顔で応え、その笑顔はバスに戻っても続き、
今度は隣の人が笑顔になって・・・普段は気にも
とめないことですが、穏かな春光がバスいっぱい
に広がったようなその光景が忘れられません。

小さくちぢこまっていたマンサクの花が、全身
を伸ばしたように咲き始めると、あたりは早春の
柔らかな香りに包まれます。待ちかねた春一番が
勢いよく山中の杉葉を吹き落として、大智寺でも
ようやく山笑う季節を迎えようとしています。



～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

里4号のおばあちゃん 菜の花の生姜和え

- ① 菜の花は湯でさっとゆがき、冷水にとる。水をしぼり3cmくらいに切る。
- ② シイタケもゆでて、細切りにする。
- ③ 生姜はすりおろして、しょうゆを混ぜておき、
食べる直前に菜の花とシイタケと一緒にあえる。
- ④ 器にこんもり盛って、出来上がり。



菜の花もシイタケも、春にたくさん出回るで、特別な材料でもないけど、
やっぱり春になったら食べたくなるもんやね。手早く作れるで、ちょっとした小鉢にええよ。



～ うちの宗教って、どんなやつけ？ ～

第十四回：教外別伝（きょうげべつでん）

大智寺の宗門を、やさしく簡単におわかりいただければ嬉しい、そんなお話



禅宗では、悟りの境地にたどり着くため、坐禅を修行の中心とします。しかし禅の修行道場に入り、一年、二年と坐禅をし、師匠を信じて励んでもなかなかその境地に到達できず、焦りや苦しみが弟子を襲います。

伊深の正眼寺で住職をされ、その後妙心寺管長となられた梶浦逸外老師は、禅道場の弟子に対して、何事も絶対に言葉で説明されなかったそうです。本人が気付くまで何も言わず、ただ怒られたそう。

ある方が老師にその理由をたずねると、老師はこのように語られました。「セミが長い土中の生活を終えて、土の上でようやく殻から抜け出そうと必死にもがく。その時、人間が老婆親切をむき出しに、手を貸したとしよう。きっとあの繊細なセミの身体を傷つけてしまうだろう。人間も同じなのだよ。」

坐禅によって得られる悟り（仏心に目覚める）とは、必死に坐禅を組み、もがき苦しむ中で、誰に教えられることなく、自ら「ハッ」と体験するものであり、禅の心とは、師から弟子へ以心伝心されるものだ、と達磨大師は伝えています。

●教外別伝：悟りの境地は、文字から教えられる内容の外にあり、言葉で伝えられることとは別に、心から心へ直接伝わるものなのだ。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

3月23日（日） 一回 500円
（朝8時～9時） （内 300円は義援金）
要申込

2月写経会 備忘録

侘助の花も満開となった2月の写経会では、先日宮城県へ旅行された方から「写経会の皆さんに」といただいた老舗丹六園のお菓子「志ほがま」をお茶とともに頂戴しました。国の天然記念物である塩釜桜が、美しく型押しされたそのお菓子は、優しくはかなげなようでいて、震災から立ち直っていく人々の静かな強さを感じるお味でした。お心遣い、ありがとうございました。

永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りの方がいなくても、永代にわたって、お寺が守って供養するお墓のこと。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代に亘り、他の方のお骨と混じらないことから、「完全個別永代供養墓」といいます。

ご希望の方は、いつでもご相談ください。



完全個別永代供養墓
1区画：38万円～
（墓石代金含む）

ご家庭のご事情により、また、その方のご希望により費用は変わります。

詳しくは、ご見学を含めてご説明いたしますので、ご予約の上、ご来山ください。